

60歳からの主張

《エッセイ・小論文部門》

〈平成25年投稿分〉

この道より我を生かす道なし、

この道を行く

濱田 芳雄

私も2014年の新年を迎えると、満91歳となります。ふと頭にうかびましたのが文学者で91歳まで生きられた武者小路実篤さんのことです。

かぼちゃとか野菜の絵を描いて、それに味わい深い言葉を添えて日本中にたくさん贈っています。

旅館などに泊まりますと、この絵と文の描かれた色紙をときどき見ることが出来ます。これを眺めて、しみじみと身近な野菜と、この言葉の中にこめられた人生というものを味わい深く思い出すことになります。

もう一つ武者小路さんの言葉をご紹介します。「他人に思いやりのある人は美しい。しかし思いやりを売りつけるものは醜い」と。これも、いかにも武者小路さんらしい言い方です。

相手の立場に立って考えて思いやること、人間の優しさであり、美しさであるとは武者小路さんのおっしゃる通りです。人間は自

分中心的に考えると子供と言われ、自分と他人との巡り合わせがわかつてくると大人と言われ、さらに、もつとも優れた人は相手の立場に立って考えると言われています。この思いやりこそは、相手の立場に立って考えることの極致であり、すべての宗教は、この思いやりから生まれたという人もあるぐらいです。

かりに自分は損をしても、人のために自分の志した、こういう道を突き進んでいこう。こういう底抜けの楽天主義に貫かれた武者小路さんの文学と人生は、いつまでも忘れ難いものとして日本人を末永く励ましてくれています。

この武者小路さんのことばも、時により少し変化します。

「わが行く道に茨多し。されども生命の道は一つ。この外に道なし、この道を行く」

武者小路さんは、独自の理想主義を生み出していきます。その結果、いろいろと小説を発表し、多くの人々に強い感銘をあたえました。

その考え方、理想主義の基本には、生活と芸術の一本化、一元化をめざす努力があるように思われます。茄子やかぼちゃなどの野菜を好んで描かれたことの中に、その心が表れていると言えましょう。

武者小路さんの別のことばを、いくつかご

紹介してみましょう。

「馬鹿な者は、独身の間は結婚した時のよろこびを空想するし、結婚すると独身時のよろこびを空想する」

「人間は神がつくったということは僕は信じられない。神がつくったものとしては人間は無常すぎ、不完全すぎる。しかし自然が生んだとしたら、あまりにも傑作すぎるように思うのだ」

「友情の価値は両方が独立性を傷つけずにつきあえるという点にあるのだ」

「死滅しないものとは何か。自然であり美である」

「人生にとつて健康は目的ではない。しかし最初の条件なのである」

残された人生観を先人の教えを参考にし、悔いのない人生を、送ってもらいたいものです。

多趣味が一番

吉岡 芳夫

北陸中日新聞に「妻と夫の定年塾」という週一の連載がある。作家の西田小夜子さんが、寄せられた話をもとに、軽妙なタッチでいろいろな定年後の夫婦の有り様を紹介するエッセイである。理想的な定年後だな、そんな

夫ではさぞ妻も困るだろうな、それでは夫もかわいそう、いい奥さんだな、我が家に似ているかな、などと多様な人生に触れることができる。読後感はずいぶん爽やかで、より良い定年後の過ごし方を見つけるのに大いに参考になる。

最近の記事に、老後の楽しみに妻が油絵を習い始めたという話があった。教室に通ううち妻の絵はめきめき上達し、小規模美術展で入賞する程になった。夫もそれをたいへん喜んでいたが、やがて妻は「絵を描くのをもはやめようかな」とボツリといったという。夫は「どうして？入賞したサクラ並木の絵なんか素晴らしかったよ」というと、「ホントは続きたいの。描いていると無心になれるし、楽しいわ。でもねえ」。妻が言うには、入賞した櫻の絵に対して、教室の古株の女性たちが非難したり中傷したりするのだという。曰く、タッチが先生の絵にそっくりだとか、先生が手を加えたから入賞は当然だといったやつかみである。

夫が、「先生の絵に似てくるのはよくあることだし、人のヤキモチなど放っておけばいい」と力づけたのだが、やがて妻は絵画教室に出なくなり、自宅で一度描いたキャンパスの上に、暗く激しい絵をなぐり描きするようになったという。記事は、優しい夫が自分の趣味のコースに誘って見るのだったで、終

わっている。

他人の雑言に強い人もいれば、弱い人もいる。心無い言葉で、他人を中傷するのは困ったものである。私も絵を習っているもので、この話は他人事には思えなかった。私が通っている油絵教室にはこのような問題はなく、受講生の入選や入賞を率直に喜び、落選してもまた頑張ろうという雰囲気があつて幸せである。

私は多趣味である。主なものは油絵、カラオケ、ゴルフなどで、腕前は決してうまいとは言えないが、それぞれにより上手になりたという目標を作ることができ趣味である。私の目標は、油絵では県の美術展に入選することだがまだ実現していない。カラオケには機械式の精密採点という装置がある。依怙贖がない採点で実力が判定される。少なくとも90点は超えたいといった具体的な目標ができるところがよい。ゴルフなら、飛ばし具合やスコアが目標になる。世界旅行だつていきたいところがいっぱいある。

私は、目標ができる趣味、目標に向かって何かにチャレンジできる趣味を持つのが、定年後を生き生きと過ごすのに一番良いことだと思ふ。喜寿を迎えた現在、健康にも恵まれ、人生まだやる気満々である。

〈平成26年投稿分〉

日々是好日

濱田 芳雄

後世に伝えたい「ひとこと」「日々是好日」これもたいへん有名な言葉でして、世間では「日々是好日、無事は名馬」というような使ひ方を致します。毎日毎日が、いい日なのだと思つて暮らせば、人生毎日がしあわせになるのだという教えです。

これを別の言い方をしますと「一日一生」という言い方にもなります。今日、一日で、明日はひよつとしたら死ぬかもしれない、死んでも悔いがないようなに今日の一日をベストに暮らしていこうではないかという生き方です。

「明日ありと思う心のあだ桜、夜半に風の吹かぬものかは」という歌もあります。

明日、桜を見に行こうと思つていても夜中のうちに嵐が吹いて桜が皆、散つてしまふかも知れない、だから、どうしても見たければ時間をつくつて見に行らっしゃい、そうすれば悔いが残らないよという教えです。毎日毎日を平和に、平凡に生きてく人たちには、ぴんと来ないかもしれませんが、私のように戦争体験があり、あつという間に人の命が藻屑のように消えていくのを目の当たりにした人生を送ってきた者にとっては、この「日々は

好日」という教えは、たいへん味わい深い言葉のように思われます。

しかし、この「日々是好日」という言葉が本当に言えるためには毎日毎日の生き方を目的意識的に、しっかりと足を踏みしめて生きていくことを繰り返していかないことには、なかなか、こういう境地には達しないと思いません。

この日は本当に、いい日なんだ、昨日もよかった、明日もまた、いい日になるだろう、明日をいい日にするためには今日を本当にいい日にしようという心がけです。

人間の一生というのは考えてみれば、たいへん短いものとして光陰矢の如しで、あっという間に過ぎ去ってしまいます。

若い時は、時間がたくさんあるように思っておりますが、年を取ってみると年の過ぎるのが非常に早く感じられます、

そういう歳になって初めて一日一日が惜しくなるといえるのは、もう間に合いません。若い時から、「日々是好日」という心がけで過ごしてきた人だけが年をとって、こういう言葉をしみじみ口にすることが出来るようになるのではないかと思います。

癌になった若い医師が、専門家として自分の死期をはつきり自覚したその日から、世の中を見る眼がすべて変わったという話があります。その医師は、癌を知った人間が、どの

ような心境になり、またどのように戦うかをリアルに記録するのが、残る人生における自分の使命であると自覚したのでした。

それからというもの、まさに「一日一生」の毎日で、見るもの聞くものすべてが、まるではじめてみるような新しさを感じ、花がこんなに美しく、子どもがこんなに可愛いらしく、人生がこれほど素晴らしいものとは思わなかったと、死ぬまでが毎日感動の「日々是好日」だったそうです。

この医師はその短い日々を、普通の人の何十倍も充実して生きることが出来たのでした。今、生かされている、一日一日を「日々是好日」に生きていってもらいたいと願うものです。

一生勉強、一生感動、一生青春の

福井いきいき会

吉岡 芳夫

私は、大手電機メーカーの研究所や工業大学に研究者や教員として勤めた。喜寿を過ぎた今は、大学もやめ、老後にとまって取得していた技術士の資格を持って自宅隣に技術士事務所を開いている。しかし、今は仕事以外に十分な自由時間がある。

定年が近づくと、退職後はあれをしたい、

これをしたいと考える人は多い。だが、いざ退職すると、思ったように老後に人生を楽しむことができないと分かってくる。それは、職場をはじめ、関係先などに多くの人間関係があつた現役時代に比べて、退職後は、極度に交流範囲が狭くなるためである。同級生や地域の集まりにはしがらみもあるし、趣味の世界で新たな友達をつくらうとしてもなかなかむつかしく、有り余る時間を埋めることはできず、やがて出不精になってしまう。いつも家でゴロゴロしている主人の世話は、もうたくさんだ。私だって老後を自由に楽しみたいとなってくる。

そんな惨めな老後を過ごさないようにする第一の条件は、人的交流の輪を広くすることである。どなたが言い始めた言葉かは知らないが、老後は、教育と教養が大事だという。教育は今日行くところがある、教養は今日用事があるという意味である。

私の友人で実業家の福井康人さんは、超高齢者世界に入ってきた現在、介護の充実を叫ぶ前に、介護されない自分になることこそ重要だとして、高齢者が集まって語り合う福井いきいき会を立ち上げた。昨年の一月のことである。この会は、一生勉強、一生感動、一生青春をモットーに、月1回の例会と、4つのサークル活動を行っている。

例会は、主として、外部講師や、参加者自

らが講師になる講演を聞き、懇談する講演会である。これまでに、医学、健康、戦争体験、郷土の歴史、海外旅行、我が人生、ボランティア活動、科学技術の話など興味ある講演が行われた。私自身も30年前に遭遇したハイジヤック事件の顛末を、当時の資料をスクリーンに投影してお話した。

また、一層の活性化を目指して今年から始めたサークル活動は、現在4つある。まず、テーブルを囲み弁当を食べながらおしゃべりを楽しむおしゃべりランチ、昔鑑賞した映画をDVDで鑑賞し、若い頃を思い出して歓談する懐かしの映画鑑賞会、適度な運動で心身の健康を保つことを目指したピンポンの会、好きな歌を歌ったり聴いたりする楽しいカラオケうた会である。

狙いは、いずれもしがらみのないたくさんの仲間を作ることと自分自身が楽しむことである。特別行事として新年会や旅行会も開催する。新しいサークルも追加の予定である。ちなみに、福井いきいき会は、常に新しい参加者を受け入れており、現在継続して参加している人だけでも、70数人に達している。

私は、この会の副会長を務めている。実際は、福井会長の補佐として例会の記録、運営委員会の司会や議論のまとめ、議事録の作成、増加していく参加者の名簿の作成、新年会の企画や60歳からの主張の川柳やエッセイを

会としてまとめて応募する作業など様々である。

事務量はかなりの量であるが、現役時代に会得したパソコン使いのスキルが活かしている。むしろ仕事は多い方が面白い。新しいことをするのは実に楽しいことである。今、来年の新年会の計画を進めている。出し物を増やして実施する。その中で、目玉の一つは、今回いきいき会の人たちが作り、60歳からの主張の川柳部門に応募した川柳を、いきいき会の中で最終人気投票することや、この一年の活動を振り返ったプレゼンや、来年度の予定の紹介である。

資料の作成、動画や写真をふんだんに使ったプレゼン、記録DVDの作成など、自由時間の活用に事欠かない。福井いきいき会は、私自身にも、充実した老後の時間を与えてくれている。この分では、当分介護のお世話になることもあるまいと実感している老後である。

〈平成27年投稿分〉

「福井いきいき会駅前よろず茶屋」

開設奮闘記

吉岡 芳夫

福井いきいき会は、一生勉強、一生感動、

一生青春を合言葉にした高齢者の団体である。設立以来2年を経過し会員も増えたので、駅前商店街にあるビルの空き部屋を借りて拠点とすることにした。

この話が1月下旬に決まってから、4月1日を開所日と決め、拠点づくりの作業に入った。まず、先立つ資金については、市の長寿福祉課に補助金を申請することにした。この補助金は、広域を対象にするような本会は対象外として何度も断られてきたが、会長が市と折衝した結果、福井駅前地区のよろず茶屋として設立が認められ、20万円の設備費と同額の運営費をいただけることになった。

さて、会議や、討論会、読書会、パソコン教室などには、たくさんの椅子や会議机がいる。健康麻雀用の麻雀台もいる。映画や音楽の鑑賞会では、音響、映像設備や遮光カーテンが必要だ。ベニヤ張りのままの壁にはクロスも貼りたい。こうした拠点会場を実現するために、会員の奮闘が始まった。調度品はネットで調べてみると中古の椅子でも千五百円。机は1万円もする。麻雀台やソファなど必要な設備の費用を勘定していくとざっと80万円ほどにもなり、補助金の4倍にもなってしまう。どうしようかと議論しているうちに、Y・Mさんが何でも揃いまとめて買ってくれば安くするというリサイクル会社があるという情報をもってきた。

喜び勇んで見に行くことにしたが、店の前に行って一同びっくりしてしまった。まるで、ごみ屋敷のように入口付近には中古品が野積みになっている。中へ入ると、細い通路の両側にあらゆる中古品がある。椅子があると、積み重なっているのが見える。さらに奥へ進むと、ところどころに椅子が見える。そして店長はすぐに40脚の椅子を確認してくれた。

途中にホワイトボードや冷蔵庫、32インチのテレビもある。会議机は、一階の天井近くに重なってあるのが見える。こうして欲しいものはほとんど調達できることが分かった。我々が資金難を訴えて交渉すると、まとめて10万円でもいいという。その場で購入を約束したが、雑然とした中でも、商品のあり場所をしっかりと把握している店長は大したものだと感謝しつつ店を後にした。

映像設備は、会長の知人が大サービスだといって一式5万円で購入していただいた。カーテンは、生地はN・Mさんの知人から無料でいただいたのだが、カーテンレールの取付けでは、大変な苦勞をすることになってしまった。

天井が石膏ボードでねじ止めの力が弱く、カーテンをつけると垂れ下がってしまう。特殊なねじを買ってきたり、天井の骨組みを探ったり、背伸びをし、汗をかきながら、何度

やってみてもうまくいかなかった。この奮闘を見ていた会長が、「薄い板をレールに接着し、それを接着剤で天井にくっつけたらいいんじゃないの」と言って、難なく固定してしまった。一同思わず万歳であった。

壁のクロスは、貼り付け方法のビデオもあるので、自分たちで貼ろう、いや業者でないと無理と主張する人があって、クロスの購入を迷っていたら、これもN・Mさんが、貸主の会社にちゃっかり交渉してくれていた。なんと、無料でクロス貼りをしていただけることになったのだ。

音楽鑑賞サークルは、レコード演奏を楽しむようにしてほしいという。筆者は、中古のミニコンポを提供することにした。レコードプレーヤーがない。これを聞いたAさんが、「古いけれど亡き主人が愛用していた音響装置を使えないか」と申し出てくださった。大きく立派な装置で音は出るが、レコードプレーヤーが動かない。原因を調べていくと駆動用のゴムベルトが劣化しているため、新しいベルトを購入して直すことが出来た。麻雀台もT・Aさんの紹介で安価な手製の台を作ってもらった。

こうして高齢の会員だけで一致協力の結果、補助金とそれまでの若干の蓄えだけで、福井いきいき会駅前よろず茶屋の拠点づくりを完了し、4月1日の開所日を迎えること

が出来た。今日、この拠点を、毎月延べ約340人の会員が利用している。



60歳からの主張

《川柳部門》

これまで、3回にわたって、福井いきいき会からまとめて、川柳を応募してきた。応募作品をすべてここに載せるのは、分量が多すぎるので、その中から、会員が投票で選んだ川柳、川柳同好会のメンバーが選んだ川柳だけを以下に掲載する。

〈平成25年の応募作品から選ばれた川柳〉
(応募総数83句)

宝島社 還暦川柳に掲載句

素晴らしいドレス身に着け 歌忘れ

有田 つぐ子

コーラスで 鍛えた声で 叱る妻

吉岡 芳夫

福井いきいき会会員による選句

ケイタイを やつと覚えりや みなスマホ

福井 康人

医者通い 何処へ行つても 年のせい

福井 康人

ここへ来た 用事が何か あった筈

朝井 英明

何だっけ 出掛けてきたのに また戻る

奥島ヨシコ

忘れどと 取ったメモさえ どこえやら

吉岡 芳夫

あれそれで 会話のはずむ 同窓会

竹内 貫

置き忘れ メガネ財布に 保険証

吉岡 芳夫

カーチャンや そのあれをと 年のせい

林 智恵子

これからは 有難うです 人生は

石田 武郎

幸せは おだやかに過ぎす 下り坂

平林 幸二

年金も 国を挙げての 脛齧り

石田 武郎

雨降れば 今日とは休める 老いふたり

奥島ヨシコ

田舎には アベノミクスも 遠回り

柳川 昭明

シヨッピング まずは決め置く 休み場所

大野 勉

趣味問われ 真顔で答える 「ボケ防止」

大野 勉

平穏な 老後は妻の 顔次第

吉岡 芳夫

ばけないうよう 話し合ひして ばけ話

小泉 時子

毎月の 期待が強い いきいき会

前田 行雄

孫の声 元氣もらって 若返り

松島 成美

未だ生きる 業断ち切れず 未だ生きる

柳川 昭明

やーやーと 声をかけあい 誰だっけ

竹内 貫

老後路や 進む時間の 早いこと

福井 康人

我が年を 教えて自慢 生き守り

福井 康人

〈平成26年の応募作品から選ばれた川柳〉
(応募総数173句)

宝島社 還暦川柳に掲載句

亡き友に 誘いにくるなど 手を合わせ

折尾 敏和

福井いきいき会会員による選句

会ってすぐ じゃまた来るねと 帰る孫

向川 佐多夫

長電話 かつてきたのか かけたのか

村瀬 康夫

恥ずかしい 思いになれば まだ若き

酒井かず子

朝刊は 先ずおくやみ欄と 運勢欄

竹内 貫

今日も合う あの人大好き 誰だっけ

中野ふさゑ

生き生き会 老いの淋しき 満たされる

濱田 芳雄

ボケだけは 来ないでくれと 神頼み

福井 康人

いきいき会 見しらぬ人の 宝船

福井 康人

いきいきと 笑顔忘れず その日まで

澤崎 和子

腹八分 好みの物は 加減なく

酒井かず子

他人には 生きた証が ゴミに見え

千田 節子

年よりも 若く見られて 鏡見る

濱田 芳雄

幸福は 測る物差し 皆違う

濱田 芳雄

もうあかん 何度云うたら 気が済むの

福井 康人

今日も又 ネクタイ締めるも 当てはなし

向川佐多夫

測るたび 数値が下がる 我が背丈

澤崎 和子

カタカナと 変な日本語 ここは何処?

中林 幹夫

この世相 山もおければ 地もいかる

松島 成美

守わすれ 携帯電話が 辞書替わり

吉岡 芳夫

発表会 歌詞を忘れて 立ち往生

吉岡 芳夫

若作り 執念ですよと 友が言い

吉岡 芳夫

エンディングノート 何ページあつても

かきたらず

中野ふさゑ

永らえた そのこと自体を 幸と知る

千田 節子

先走る 気力と体力 反比例

千田 節子

お元氣ね この一言に 湧く力

濱田 芳雄

大掃除 ゴミと一緒に 進いやられ

有田ツグ子

医者通い 加齢加齢で 済まされる

村瀬 康夫

体肝日 決断したが また飲んだ

村瀬 康夫

散歩する 赤提灯に 足が向く

村瀬 康夫

じいちゃんと 孫にねだられ ついゆるむ

吉岡 芳夫

ふいぶきを 聞こえぬふりで 読まれてる

小林 久子

しみている 手作りの味 おもいやり

小林 久子

主語述語 会話乱れし この頃は

竹内 貫

何求む 求むを求め 生き生き会

竹内 貫

幸福は あすも来ると 言い聞かせ

中野ふさゑ

人生の ラストスパート まだー先

中野ふさゑ

耳遠く トイレとあの世 近くなる

井上 清一

わたくしは だまされないと だまされる

有田ツグ子

誕生日 おめでとより ご苦労さん

福井 康人

お互いの 年の聞きあい 千支です

安原 信夫

〔平成27年の応募作品から選ばれた川柳〕
〔応募総数 150句〕

川柳同好会メンバーによる選句

親と子が さかさま時代と 嘆く日々

福井 康人

副作用 負けじと毎日 飲む薬

福井 康人

敬老会 イケメン見つけに お洒落して

中野 ふさゑ

記念にと 大事にしたもの ごみになり

中野 ふさゑ

退屈の 一語に尽きる 休肝日

加畑 幸作

語呂合わせ 妻はドローンで 俺キョートン

加畑 幸作

同窓会 好きだった人を まず探す

吉岡 芳夫

新曲を すぐ歌う人 ばけ知らず

吉岡 芳夫

老いの恋 思っていたが 不整脈

濱田 芳雄

お買い物 値段暗算 脳トレイ

濱田 芳雄

おと鮎に 逃げられ坊主 明日こそ

小林 久子

割れ花火 消えて又咲き 歳重にも

小林 久子

走行中 お先にどうぞで パトカーに

増永 一夫

健康で 若返るには 恋すべし

増永 一夫

自分の人生 つらい思いも 無駄じゃなし

奥島ヨシ子

今思う あの時あの娘 今いざこ

吉野 廣

傘寿の春 シワとクリーム 通販で

山口 悦子

美辞麗句 寄ってしまった 春うらら

山口 悦子

髪飾りとまらない程 うすくなり

渡辺千津子

撫でまくる 頭丸ごと ママの愛

渡辺千津子

極楽へ 連れて行つてと せがむ孫

林 智恵子

往復の 極楽行きの バス探す

林 智恵子

